

五福谷地区遊砂地整備に係る ワークショップ提言書

令和4年3月

五福谷地区周辺住民代表一同

目次

1. はじめに	1
2. 検討のプロセス	2
3. ワークショップからの提言	4
4. おわりに	6
5. 参考資料	7

1. はじめに

丸森町は、宮城県沖を流れる暖流の影響を受けた温暖な地域で、阿武隈川流域やその支流域には多くの動植物が生息し、自然環境に恵まれた情感豊かな町として、町民一人ひとりが自信と誇りを持てるまちづくりを進めてきたところです。

そうした中、令和元年東日本台風により、丸森町は未曾有の災害に見舞われました。概ね 700 年に 1 度発生する規模のすさまじい豪雨によってもたらされた土砂・洪水氾濫や土石流災害により、尊い人命も失われました。

この災害を契機として、多くの家屋が被災した五福谷地区には遊砂地が整備されることとなりました。遊砂地が整備されることにより地域の防災性は向上しますが、地域住民の日常の暮らしや営みがあった五福谷地区周辺の景色も大きく変わることになります。



東日本台風による土砂・洪水氾濫の状況（令和元年 10 月 15 日撮影）

丸森町は山や川の恩恵を受けて発展してきたまちです。今後も厳しく、かつ、優しい自然と共存して暮らしていくためにも、私たちは災害教訓、大切にしてきた地域の暮らしや文化を次世代に伝えたいという思いを込め、ここに提言書を取りまとめました。

私たちの思いを真摯にお汲みいただき、丸森町の復旧・復興を進めていただけますよう、よろしく願いいたします。

令和 4 年 3 月
五福谷地区遊砂地整備に係るワークショップ
五福谷地区周辺住民代表一同

2. 検討のプロセス

(1) ワークショップの開催目的

阿武隈川水系内川流域では、令和元年東日本台風において、土砂・洪水氾濫等により甚大な被害がもたらされました。この災害を受け、国の直轄事業（特定緊急砂防事業）により、短期的、集中的な砂防施設の整備が、令和2年度から実施されています。

中でも被害の大きかった五福谷地区では、県内最大規模となる「遊砂地」の整備計画があり、精力的に事業が進められているところです。当該地区は天皇皇后両陛下が被災地見舞いに訪れた場所でもあり、当時の被災を後生に伝承する上でもこの五福谷川遊砂地は「東日本台風の象徴的な施設」の一つになるものと考えます。

そこで、この遊砂地をきっかけとした新たなコミュニティの形成や丸森町の観光資源、防災教育の充実に繋がることを期待し、主に日常の利活用を主眼としたワークショップを開催しました。



五福谷川遊砂地の整備イメージ（CG 画像）

（参考：遊砂地について）

上流から大量の土砂が流れてきても、一気に下流まで流れ込まないように、一時的に土砂を受け止める施設が遊砂地です。

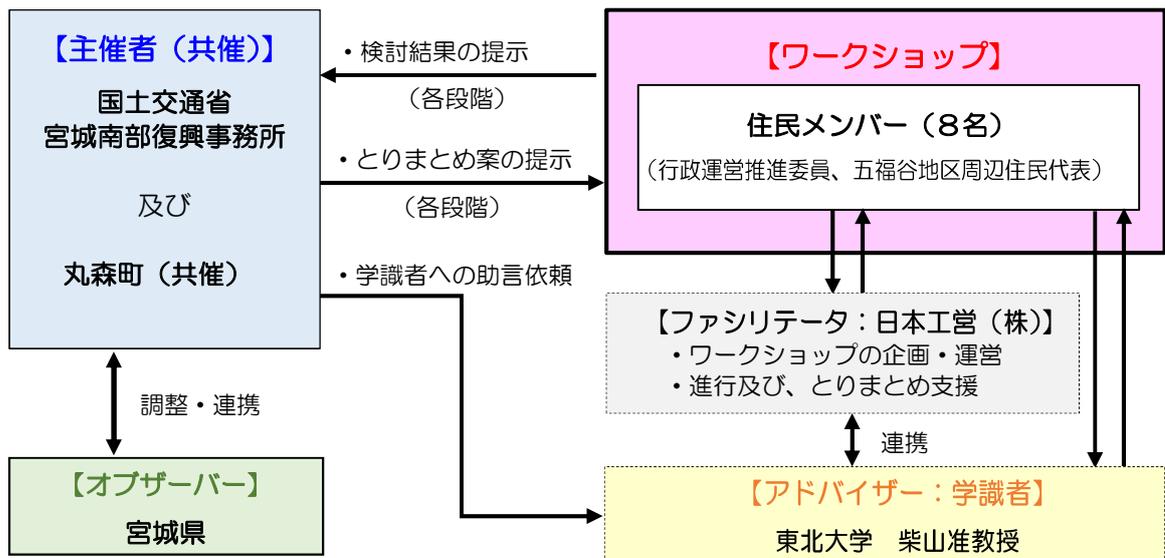
遊砂地の整備によって、遊砂地から下流への土砂・洪水氾濫の被害を軽減することができます。



(2) ワークショップの検討体制

本ワークショップは、令和3年11月から令和4年2月の4ヶ月間で3回開催しました。

五福谷地区周辺に在住の8名がワークショップに参加して検討を行い、丸森町復興推進委員会の副委員長である東北大学の柴山准教授からも助言を頂きながら、提言書を取りまとめました。



(3) 提言書作成の流れ

ワークショップでは3つのステップを踏まえ、提言書を作成しました。

回数	日時	会場	意見交換のテーマ
第1回	令和3年 11月8日（月）	丸森まちづくりセンター	・遊砂地でいたいこと、 遊砂地にあるとよいもの について
第2回	令和3年 12月20日（月）	現地視察（遊砂地） 丸森まちづくりセンター	・現地視察 ・遊砂地の利活用アイデアの 具体化に向けて
第3回	令和4年 2月21日（月）	宮城南部復興事務所	・提言書案について



【提言書提出】 令和4年3月4日（金） 丸森町長へ手交

3. ワークショップからの提言

(1) 地域の安全性を高める遊砂地として

- ・ 土砂・洪水氾濫から地域を守る遊砂地として整備を進めてください。
- ・ 遊砂地がその最大の効果を発揮できるよう、必要な維持管理を行ってください。高齢の住民が多く、被災して地区外へ移転した人もいる現状を踏まえて、維持管理が簡単となる形状にするなどの工夫をしてもらえると、住民も協力できることがあります。
- ・ 遊砂地や砂防えん堤のみでは防ぐことが難しい災害に備えて、私たちは主体的な自助・共助の防災の取組を、これまで以上に推進します。



防災性を高める遊砂地のイメージ

(2) 災害教訓を伝えるための遊砂地として

- ・ 五福谷地区は、被災後、天皇・皇后両陛下のお見舞いをいただいた地区です。多くの方に支えていただいたことを後世に伝えるために、行幸の記念となる工夫を織り込んで整備してください。
- ・ 遊砂地が、多くの人たちにその役割などを学んでもらえる場所となることを願っています。
- ・ 遊砂地が整備されたこの場所で、多くの人々に土砂・洪水氾濫の危険性の教訓を伝えるための整備を行ってください。



防災学習のイメージ

(3) 五福谷の暮らし・文化に寄り添う遊砂地として

- ・ 被災前から親しんできた川とのふれあいや水の利用ができ、鮭をはじめとする川の生き物の姿が見られるよう、川に近づきやすい工夫をしてください。
- ・ 川岸にある、地域で大切に守っている神社は、五福谷地区の住民の心の拠り所であり、暮らしを支える文化です。これまで培ってきた暮らし・文化に寄り添うように配慮して、整備を検討してください。



地域で大事にしている神社

(4) 地域住民に親しまれる遊砂地として

- ・ 被災前の見慣れた家並や風景がなくなったことで、住民はさみしい思いをしています。桜並木や柿の木、もみじなど五福谷らしい自然に調和した季節感ある植栽、住民同士が集える空間の提供など、暮らしになじむ工夫を織り込んだ整備を検討してください。
- ・ 私たちは子どもたちの遊び場、健康を維持するための場、季節を楽しむ憩いの場、多くの人が集いふれあう場など、様々な場面で遊砂地を活用して、豊かなコミュニティと生き生きとした暮らしを育てていき、地域の活性化にも繋げていきます。



川に親しむイメージ

4. おわりに

～五福谷地区の復興のスタートラインに立って～

五福谷川遊砂地は、現在設計段階であり、完成までには約3年以上もの時間を要します。丸森町の防災性向上には、阿武隈川水系流域の数多くの砂防施設の整備とともに、阿武隈川水系の河川改修や河川防災ステーション等の整備も必要です。

丸森町は、まだ、災害からの「復旧」の段階にあります。丸森町復旧・復興計画では、令和4年度から6年度を、災害を乗り越え町が目指す将来像を達成するための取組を加速する「復興期」と位置づけしています。

私たちは3回のワークショップでの話し合いを通じて、住民の「思い」を文章で示した提言書をまとめました。今回の提言書は、「五福谷地区の復興に向けたスタートライン」として考え、今後も、安全で元気に暮らせるまちづくりを実現するため、まちに係わるみなさんとの対話を重ねていきます。

引き続き、「安全・安心」、「活力と交流」のまちづくりと、それらを住民と町とで進めて行く「協働」のまちづくりの推進をお願いいたします。



丸森町の景色

5. 参考資料

●ワークショップ参加者（8名） 五十音順

五福谷地区住民代表	佐久間 茂光	五福谷地区民生委員	佐久間 新平
五福谷地区住民代表	佐藤 弘茂	五福谷地区住民代表	佐藤 裕子
中通地区民生委員	宍戸 克美	中通地区区長	田口 時雄
五福谷地区区長	古川 尚武	五福谷地区住民代表	目黒 礼子

●アドバイザー

東北大学災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門
災害文化アーカイブ研究分野 准教授 柴山 明寛

●第1回開催 [令和3年11月8日(月):丸森まちづくりセンター]

テーマ:遊砂地でしたいこと、遊砂地にあるとよいものについて



ワークショップの状況(第1回)

●第2回開催 [令和3年12月20日(月):遊砂地・丸森まちづくりセンター]

テーマ:現地視察、遊砂地の利活用アイデアの具体化に向けて



VRを活用した現地視察



ワークショップの状況(第2回)

●第3回開催 [令和4年2月21日(月):宮城南部復興事務所]

テーマ:提言書案について



ワークショップの状況(第3回)



柴山准教授との意見交換